

ICカード事業の展望

Prospects for the Smart Card Business

曾我部 正躬
Masami Sogabe

汎用コンピュータが出現してから30年、パーソナルコンピュータが生まれ市場で認知されてから15年が経過しました。20世紀も2年と数か月を残す今、ICカード時代が始まろうとしています。21世紀初頭には、各個人個人がICカードを携帯する時代が来ると予測されています。いわゆる“電子財布”時代の到来です。ICカードは、市場で取りざたされている電子マネーの有力なツールであり、安全な電子商取引(EC)をインターネット上で実現するためには、不可欠なツールといえます。

ICカードは、ヨーロッパを中心に第一次の揺籃(ようらん)期を迎えています。テレホンカードを含めると、すでに1996年度、6億枚のICカードが発行されており、21世紀の初頭にはICカードが、数量ベースでDRAMを超える日が来るものと思われま

す。ICカードの普及が遅れていたわが国の市場でも、昨年から各種の電子マネーの実現計画が明らかにされ、今年から来年にかけ次々と実験がスタートしつつあります。さらにはNTT(日本電信電話(株))の決断により、テレホンカードのICカード化、しかも無線型の導入が決定されました。

当社は、長年VISAインターナショナル社と培ってきたクレジット処理の業務ノウハウを、ICカードのカードオペレーティングシステム(COS)上に構築しています。

通商産業省の国家プロジェクトの一環であるスマートコマースジャパン(SCJ)プロジェクトでは、世界初のEMV^(注1)仕様のVISA Cashを開発し、(株)ダイエー、阪急グループ各社の協力を得て実施する計画です。さらには、ICカードの多目的利用を実現するオープンシステム型ICカード“Java Card^(注2)”の開発もスタートしました。JavaCardは、サンマイクロシステムズ社が提唱し、世界のデファクトスタンダード(DFS:事実上の標準)に成りつつあるJava言語を使用した次世代ICカードで、お客様、カード発行会社、カードメーカーそれぞれに利便性を提供する、夢のカードシステムです。

当社は、EC時代に最適なICカードシステムを提供するために、社内にもっている半導体LSI技術、カード技術、関連端末技術、応用システム構築技術の総力を結集して、今後増大するICカード利用システムニーズにこたえていく所存です。この特集では、当社のICカードシステム関連の技術ポテンシャルを紹介します。

お客様の役にたち、社会に貢献できるICカードの開発を、会社をあげて推進することを約束いたします。

(注1) EMVは、クレジット業界の大手Europay, MasterCard, VISAの頭文字。

(注2) JavaCardは、米国Sun Microsystems社の商標。